

中部圏域障がい者地域自立支援協議会研修会
『発達障がいがあっても地域で安心して暮らすために』 受講アンケート

平成31年2月26日

アンケート回答 32名 (参加：70名)

アンケート内容と集計については以下の通りです。

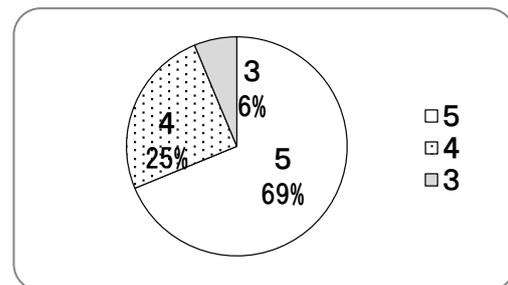
所属 ※複数回答可

	人数	
当事者・家族	5人	16%
自立支援協議会委員	7人	22%
障害福祉サービス事業所	16人	50%
行政職員	2人	6%
その他	4人	13%
計	34人	

※その他内訳
医療関係
入所施設

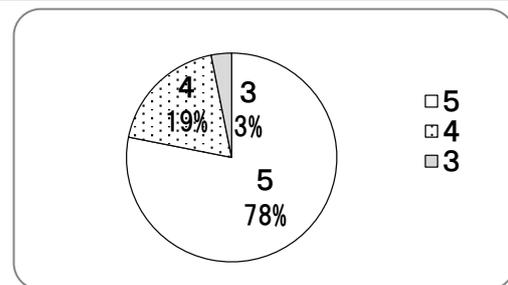
研修のテーマはいかがでしたか

	回答	人数	
良い	5	22人	69%
↑	4	8人	25%
ふつう	3	2人	6%
↑	2		
悪い	1		
計		32人	



今後役に立つ内容でしたか。

	回答	人数	
役立つ	5	25人	78%
↑	4	6人	19%
まあまあ	3	1人	3%
↑	2		
役立たない	1		
計		32人	



本日の研修で最も興味を持たれたこと、印象に残ったこと

- ・ 「だから書いてほしい」、「当事者に分かり易い情報が入ってこない」、「自立」の意味、「当事者に決定権がない。支援者と上下関係になり、対等ではない。」、「自分の存在意義?」、「当事者の声が必要とされる世の中に」、「僕からの手紙」等々、一つ一つの言葉が心に響きました。
- ・ 「言葉の海」「スクリーン」わかりやすかった。
- ・ 目を合わせることはコミュニケーションをとる上で当然のこと、当たり前のことと思っていたが、そうではないことに気付かされた。
- ・ 「今、この瞬間が苦しい」、「一人の人間として見てほしい」という言葉。
- ・ すべて
- ・ ト라우マが治る、治療できると言われたこと。
→でもどうすれば…。近くに難波さんのような人がいるのか。
- ・ パニックによる苦しみが、反面好きなものに対して起こる現象なのだとお聴きし、すごく納得しました。
- ・ ヘルプマーク知らなかったです。知れてよかった。
- ・ 「自立」の考え方。勝手に難しく設定してた。
- ・ 「自立」って難しい。援助付きの自立は想定しているけど、どこまで支援するのか、何を支援するのかをよく検討することが重要だと思った。

- ・ 確かに情報を得ることって難しい。支援者の立場でも複雑で分からないこともたくさんある。分かりにくい！当事者ならなおさらだなと思った。
- ・ 一人一人見えている世界が違う。
- ・ 当事者には、福祉や支援についての情報が全く入ってこない。
- ・ 過去と決別できない苦しさに、今苦しんでいることを理解すること。
- ・ 私はまだ障がい児者の方に寄り添う支援者としては日が浅いですが、発達障がいの方とも毎日接しています。「支援する」というかたちでしかみられていないところがあるなあと気付かされました。職場での利用者さんの姿と重なるところもあり、勉強になりました。
- ・ 障がいのある事と支援者の立場、両方で活躍されている先生のお話を聞かせていただいて、障がいがあるという事理解が自分の中で進み、とても有意義な研修となりました。
- ・ 障がいの特性が少し理解できた。
- ・ 障がい者の気持ちは障がい者の方には理解してもらえるかな。
- ・ 情報を得ることの難しさ。
- ・ 診断は重たいこと。当事者にとってはいい面もあり、苦しい面もあるということ。
- ・ 生き易さとは。
- ・ 当事者からの発信（思いや過去の経験）を聞くことができてよかった。
- ・ 当事者と支援者の両方の視点で考えられているところ。
- ・ 当事者と支援側の「物のとらえ方の違い」。一方的にこちらから支援を押し付けていたところを反省します。
- ・ 当事者の見ている視点の違いについて知ることができました。同じ目線で支援するのではなく、まずは当事者の方をよく理解し、一人一人に合わせた支援が必要だと思いました。
- ・ 当事者の世界を理解すること。
- ・ 当事者の声が聞けたこと。
当事者の相談に行くところが分からないことの気付き。
- ・ 当事者の方がどんな経験をされてきたか聞くことができとても良かった。支援者が投げかけた言葉や方法が実は苦痛に感じてしまっていること等が分かって、勉強になった。
- ・ 当事者への情報量が少ないということ。
- ・ 頭にあるけど言葉に出せない≠わからない
- ・ 発達障がいとひと言で表されているが、特性は様々で奥深いと思った。支援していく側に、しっかりと専門性が必要と感じた。当事者への寄り添い支援が必要なんだと感じた。
- ・ 発達障がいについてよくわかりました。詳しい具体的な例がわかればと思います。
- ・ 発達障がいの人の聞こえ方、見え方に特徴があり、本人に合った支援のやり方を見つけ、コミュニケーションをとることが印象に残った。

研修全体をとおしての意見、感想等

- ・ “助けて”をどこにどういえばいいのか。その分かりにくさは変えていきたい。
- ・ エネルギーを感じました。
- ・ レジュメが丁寧で分かり易く、理解を深めることが出来ました。ありのままの自分をさらけだして努力しておられる難波さん、ありがとうございました。
自分にも発達障がいの傾向があるので、共感する部分が多かったです。
- ・ 何気なく話される言葉に重みを感じました。もっと聞いてみたいです。
- ・ 今後の会議に参考になる講演でした。身障者全体に聞いてもらいたい。
- ・ 参加者への質問は当事者（障がい者）の方がいる場合は、その方を避けてあてられた方が良いと思います。とても緊張してしまうので。
- ・ 支援者として、当事者の思いに寄りそいたいという気持ちはあっても、なかなか理解が難しいことがある。
- ・ 私の母は大人になってから発達障がい（軽いですが）だと分かり、私にも少し似ている障がい、パニック、フラッシュバックなどがありながら、昨年からは支援者、相談者をしています。上司や支援者と上手くしようとしても、上手くいかないことがあります。日々、利用者のことを上から「障がい」として見てしまうこともあります。今日のことが、これからの役に立ちました。
- ・ 数年前にも研修会に参加させていただきましたが、前回同様、すごく興味深い内容で、おもしろかったです。今、支援している児童のことを考えながら、参加しました。

- ・当事者と支援者双方の立場で話していただき、違いについてとても理解することができました。当事者が思っていることなど、具体的に話していただき、とても良かったです。
- ・当事者の感覚を知れてうれしかった。いつも想像しかできていないので。“ふつう”って何だろう。“ふつう”にとらわれていたかも。
- ・当事者の気持ちを知ることができ、有意義な時間でした。
- ・当事者の思いついて大切だと思いました。その中で、理解啓発への方法を考えられたらいいと思いました。
世界の理解。
- ・当事者の世界があること。周りの世界とのギャップがあること。
→どんな工夫をすれば理解ができて、上手くコミュニケーションがとれるのか。
- ・当事者の方がこのように話されていることは、全国的にもまだまだ稀なことです。難波さんのように、否定的なところも含め、自分のことをまるごと肯定的にとらえ、話されていることがよかったです。
今回のこの研修をホームページか何かの文書に起こしてほしいと思いました。
- ・当事者の方のお話で、これだけ分かりやすく伝えていただけることが少ないので、とてもよかったです。法人の研修会などに来ていただきたいです。出かけにくい当事者や家族にも伝えて頂きたいです。
- ・当事者の目線がよくわかった。（苦しみ、生きづらさなど）
「僕からの手紙」が特にわかりやすかった。
- ・当事者の立場で日々学んだり、意識しているが、当事者の気持ちをきかず、支援者が望ましいと思っているものを提案したりしている。
本気で当事者の声をきいているか!?先回りして当事者の権利を奪っていないか!?日々気を付けていきたいと思います。
- ・普通の業務の中で、利用者様にとって良いこと、悪いことを自分の中で勝手に決めてしまっているところはなかったか、考えさせられました。素直に心に言葉が入ってきました。
- ・勉強になりました。先生の言葉で伝えてくださって、分かりやすかったです。
- ・本人の意志・意見を聞くことの大切さ。障がいがあってもなくても、どの人へも大切なことだと思います。

今後、研修会を開催するとしたら、どのような内容のものを希望されるか

- ・会員の率直な希望を聞ける場づくりの工夫が必要。今回のような当事者の方の研修は分かり易い。
- ・具体的に地域生活の中、仕事の中で、どんな方法や工夫をすれば上手に生きていけるか。
- ・支援者の勉強会（相手を思う心を養う）
- ・多様な障がい、あるいは難病も含めて、ミニシンポジウムのものを企画してほしいと思います。
- ・中々、当事者の方のお話を聞く機会がないので、また今回の様な研修があれば参加したいです。
- ・当事者、支援者どちらの視点もあり、とてもおもしろかった。当事者の感覚ってその人にしか分からないから、教えていただける機会が有り難い。
- ・当事者・家族の思いが知りたい。
- ・当事者のお話。
- ・当事者の苦しみ、困り感を理解できる研修。
- ・当事者の世界をもっと具体的に知りたい。
- ・難波さんの生活の近況を知りたいです。（支援を受けている今）
- ・認知症について、そのケアについてききたい。